

弘前大学

教養教育開発実践ジャーナル

論文

- 大学体育授業におけるボールゲーム実施中の
心拍数と主観的運動強度 益川満治, 渡邊陵由, 木村 郷, 工藤智里 1

研究ノート

- 日本におけるCLIL:心理学CLILコースの実施, 課題, デザイン
バードセール・ブライアン・ジョン, 立田夏子 13
- 教養教育英語科目1年次科目のカリキュラム改革と検証
立田夏子, 横内裕一郎, バードセール・ブライアン・ジョン
ソロモン・ジョシュア・リー 27
- 教養教育英語科目高年次科目のカリキュラム検証:
学生アンケートを中心とした考察
横内裕一郎, ソロモン・ジョシュア・リー
バードセール・ブライアン・ジョン, 立田夏子 37

実践報告

- English Communication Aにおける論理展開に焦点を当てた
マイクロ・ディベートの実践 佐藤 剛 49

事業報告

- 自律学習センター「イングリッシュ・ラウンジ」の
総合的利用者アンケート:結果と改善 ソロモン・ジョシュア・リー 63

目 次

論 文

- 1) 大学体育授業におけるボールゲーム実施中の心拍数と主観的運動強度
.....益川満治, 渡邊陵由, 木村 郷, 工藤智里 1

研究ノート

- 1) CLIL in Japan:
The Implementation, Challenges, and Design of a Psychology CLIL Course
.....バードセール・ブライアン・ジョン, 立田夏子 13
- 2) 教養教育英語科目1年次科目のカリキュラム改革と検証
.....立田夏子, 横内裕一郎,
バードセール・ブライアン・ジョン
ソロモン・ジョシュア・リー 27
- 3) 教養教育英語科目高年次科目のカリキュラム検証:
学生アンケートを中心とした考察
.....横内裕一郎, ソロモン・ジョシュア・リー
バードセール・ブライアン・ジョン, 立田夏子 37

実践報告

- 1) English Communication Aにおける論理展開に焦点を当てた
マイクロ・ディベートの実践 佐藤 剛 49

事業報告

- 1) 自律学習センター「イングリッシュ・ラウンジ」の
総合的利用者アンケート：結果と改善 ソロモン・ジョシュア・リー 63

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」投稿要項

平成28年11月22日

教養教育開発実践センター編集委員会承認

改正：平成30年 7月19日

改正：令和 3年 8月30日

1. 「教養教育開発実践ジャーナル」は、高等教育に関する実践的・学術的研究を促進し、「教養教育」の改善に資するために、その実践的・学術的研究の成果を公表することを目的として刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は、年度毎に編集委員会が定める。
4. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載する原稿は、次に掲げる(1)～(6)に属するものとし、掲載の可否は編集委員会が判断する。ただし、(1)論文、(2)研究ノートについては査読審査を経たものに限る。なお、(1)論文、(2)研究ノートとして掲載ができないと編集委員会が判断した場合、他の区分として再投稿することを可能とする。
 - (1) 論文：教養教育に関する論文
 - (2) 研究ノート：教養教育に関する研究ノート
 - (3) 実践報告：教養教育に関する実践報告
 - (4) FD報告：教養教育に関するFDの報告
 - (5) 書評：教養教育に関する著書の書評
 - (6) その他
5. 論文等の原稿は、和文（横書・縦書）又は英文を原則とする。
6. 論文等の原稿は、和文20,000字以内、英文6,000語以内を目安とする。
7. 論文等は複数編投稿しても良いものとするが、それぞれの論文等が独立し完結したものでなければならない。
8. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項に従うものとする。
9. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
10. 別刷を希望する場合、経費は著者負担とする。
11. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載された論文等の著作権及び電子化の権利については、以下のとおりとする。
 - (1) 掲載された論文等の著作権は、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）に帰属する。
 - (2) 当該論文等について、執筆者本人が学術教育目的等で使用する場合（執筆者自身による著作編集物への転載、掲載、ネット配信、外国語への翻訳、配布等）、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）は無条件で許諾する。
 - (3) 掲載された論文等は電子化し、原則としてHP、弘前大学リポジトリ等で公開する。
12. 投稿原稿は他誌に未発表のものに限る。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から施行する。

附 則（平成29年 8月 4日）

この要項は、平成29年 8月 4日から実施する。

附 則（平成30年 7月19日）

この要項は、平成30年 7月19日から実施する。

附 則（令和 3年 8月30日）

この要項は、令和 3年 8月30日から実施する。

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」執筆要項

平成28年11月22日

教養教育開発実践センター編集委員会承認

改正：平成30年7月19日

改正：令和2年8月27日

改正：令和3年10月6日

改正：令和5年12月27日

1. 原稿は原則として電子ファイルで作成し、投稿申込用紙と共に、メール等で電子ファイルを担当者（執筆申し込みの際に送付先を連絡します）にお送り下さい。なお、お送りいただく原稿の電子ファイルは、wordファイルとそれを変換したpdfファイルの2種とします。
2. 提出原稿は完成原稿のみ受け付けいたします。図表（写真含む）は原稿に埋め込み、実際に印刷して正しく描写されているか確認してください。図表は白黒の刷り上がりになります。
3. 原稿の書式は、次のとおりとします。
 - (1) 原則として、原稿（「投稿要項に記載の以下の4種別（1）論文、（2）研究ノート、（3）実践報告、（4）FD報告」は別添のテンプレートの形式に沿った形で提出していただきます。分野的にテンプレートの使用が適さない場合、投稿前に編集委員会の許諾を得た上で執筆にあたってください。
 - (2) 和文原稿
横書きの場合はA4判・1段組、39字×42行を標準とし、使用するフォントはMS明朝、フォントサイズは10.5ポイントを原則とします。ただし、タイトル等のフォントサイズは別添のテンプレートに合わせてください。
 - (3) 英文原稿
A4判・1段組、シングルスペースで39字×42行を標準とし、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイントを原則とします。（2）同様、タイトル等のフォントサイズについてはテンプレートをご参照ください。
 - (4) 和文・英文原稿共通
 - ・原稿の章立て、段落のフォーマットは（1）に示したとおり、原則として別添のテンプレートに準じるものとします。
 - ・図表の提示方法は*Publication manual of the American Psychological Association seventh edition*（American Psychological Association: APA, 2020）の形式に準じた形式としますが、執筆内容や分野の特性に応じて適宜変更しても良いこととします。
 - ・原稿の余白は上下左右25mmとします。
 - ・原稿の本文は両端揃え（justification）とし、例えば引用文献の箇所にURLを示した際に間延びして見えるようであれば、適宜改行して調整してください。
 - ・「投稿要項」の「（5）書評」や「（6）その他」についてはテンプレートを使用せず、自由な書式で記入いただいて構いません。
4. 原稿は、論文タイトル、氏名、所属、Abstract、Keywords、本文、引用文献、付録の順で記載して下さい。ただし、分野の特性に応じ、適宜本文中に注釈を乗せたり、原稿の末尾（引用文献の手前）に注釈や謝辞を記載したりしても良いものとします。
5. 論文タイトル、著者名及び所属は和文原稿・英文原稿ともに和英両語で記載して下さい。
6. 和文・英文原稿ともに本文の前に要旨（Abstract）を英語200語程度で記載し、キーワードをつけてください。キーワードは3つ～5つまでとします。また、2行以上にならないようにしてください。
7. 母語でない言語で原稿を執筆する場合には、母語話者によるチェックを受けて下さい。
8. 引用文献は本文末尾に一括して記載して下さい。なお、引用文献の書き方については、別添のテン

プレートに記載された例を参考にしてください。なお、引用文献に和文・英文のものが混在する場合、先に英文文献をアルファベット順に記載し、その後に和文文献をアルファベット順で記載してください。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から実施する。

附 則

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

附 則

この要項は、令和3年10月6日から実施する。

附 則

この要項は、令和5年12月27日から実施する。

教養教育開発実践センター編集委員会

編集委員長	松 崎 正 敏（農学生命科学部）
編 集 委 員	李 永 俊（人文社会科学部）
	今 田 匡 彦（教育学部）
	今 泉 忠 淳（医学研究科）
	多 田 恵 実（教育推進機構 教養教育開発実践センター）
	ソロモン・ジョシュア・リー （教育推進機構 教養教育開発実践センター）
	横 内 裕一郎（教育推進機構 教養教育開発実践センター）

編 集 後 記


立春を過ぎ、路面に雪もなく、春のような2024年の春です。「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」第8号が刊行できますこと、執筆者の皆様は勿論、査読などにご協力頂いた皆様、編集作業に関わった事務職員、編集委員各位のご尽力によるものと感謝いたします。

コロナ下の様々な制限からの解放が始まった1年でした。一方で、高齢化や長引く景気の低迷、さらには迫り来る気候危機への対応など、必ずしも明るくない未来に閉塞感を抱かざるを得ない日々が続いています。いまこそ、充実した学びを通して、真の幸福を目指す成熟した市民の養成という大学の使命、真価が問われる時といえましょう。

本誌がその一端を担い続けていけることを祈念しています。学内外の多くの方々にお読みいただき、ご意見ご感想をお寄せいただけましたら幸いに存じます。そしてまた多くのみなさまが、次号への投稿の構想を練ってくださいますことをお願い申し上げます。

（松崎）

『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第8号

発行人	弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター
編集	教養教育開発実践センター編集委員会
連絡先	〒036-8560 青森県弘前市文京町1 学務部教務課教務グループ 教養教育担当 電話：0172-39-3104 E-mail：jm3104@hirosaki-u.ac.jp
発行所	弘前大学出版会  〒036-8560 青森県弘前市文京町1 電話：0172-39-3168 FAX：0172-39-3171
発行年月日	2024年3月31日（非売品）
印刷・製本	やまと印刷株式会社

*Hirosaki University*2024.3
Vol. 8

Journal of Liberal Arts Development and Practices

ARTICLES

- Rating of Perceived Exertion and Heart Rate of
Ball Game in University Physical Education Classes
Mitsuharu Masukawa, Takayuki Watanabe
Go Kimura and Chisato Kudo 1

RESEARCH NOTES

- CLIL in Japan: The Implementation, Challenges,
and Design of a Psychology CLIL Course Brian J. Birdsell and Natsuko Tatsuta 13
- Curriculum Reform and Evaluation of First-year Liberal Arts English Courses
Natsuko Tatsuta, Yuichiro Yokouchi, Brian J. Birdsell and Joshua L. Solomon 27
- Review of Higher-Grade Courses in a Liberal Arts English Curriculum:
A Study Based on Student Questionnaires
Yuichiro Yokouchi, Joshua L. Solomon, Brian J. Birdsell and Natsuko Tatsuta 37

PRACTICAL REPORTS

- The Practice of Micro-Debates in English Communication A
with a Focus on Logical Development Tsuyoshi Sato 49

OTHERS

- English Lounge Self-Access Learning Center Comprehensive User Survey:
Results and Subsequent Facility Improvements Joshua L. Solomon 63